



チラシあり

令和6年9月3日

市政記者クラブ 様

観光文化交流局名古屋城総合事務所

担当：三谷、西浦 電話 231-2483

「名古屋城秋まつり」の開催等について

名古屋城の秋を楽しんでいただく「名古屋城秋まつり」を下記のとおり開催しますので、市民の皆様への周知につきまして、よろしくお願い致します。

また、催事の開催にあわせて新しい公式おみやげの販売を開始しますので、あわせてお知らせいたします。

記

1 「名古屋城秋まつり」の開催について

(1) 期 間

令和6年10月5日（土）～11月24日（日）

午前9時～午後4時30分（閉門は午後5時）

※本丸御殿、西南隅櫓（特別公開）、西の丸御蔵城宝館への最終入場は午後4時まで

※茶席への最終入場は午後3時45分まで

(2) 内 容

ア ソーシャルキャスルマーケット 2024

今年で5回目の名古屋城開催となる今回も雑貨店や飲食店など約250店舗が城内に軒を連ねます。

日程 | 10月5日（土）・6日（日） 午前10時～午後4時

場所 | 西之丸、二之丸、御深井丸、二之丸広場

イ 名古屋城学びの場 城子屋「名古屋城で生まれた^{おふけやき}御深井焼～尾張徳川家が慈しんだ産業の軌跡～」

「^{おふけやき}御深井焼」の誕生に深く関わる尾張徳川家と瀬戸・赤津との関係性とは。講座では現代に続く赤津の窯業の興隆を示す史料も公開！

日程 | 11月17日（日） 午後2時～3時30分

場所 | 本丸御殿 孔雀之間

料金 | 1,000円（別途名古屋城観覧料必要）※要事前申込

定員 | 35名

講師 | ^{かとうひろしげ}加藤裕重氏（^{き た が ま か せん}喜多窯 霞仙 十二代当主）

ウ 名古屋城学びの場 城子屋「名勝名古屋城二之丸庭園の『タタキ(三和土)』」
名古屋城の各所にある、近世～近代に施工されたタタキ（三和土）や漆喰の位置・年代を総括的に確認した後、二之丸庭園において修景のために施工されたタタキ（三和土）と漆喰について城内各所と比較しながら施工方法や種類について検討します。
日程 | 11 月 24 日（日） 午前 10 時～11 時 30 分
場所 | 本丸御殿 孔雀之間
料金 | 無料（別途名古屋城観覧料必要）※要事前申込
定員 | 35 名
講師 | 高橋圭也（名古屋城調査研究センター学芸員）

エ 尾張藩フェア
尾張藩ゆかりの各自治体による、文化や観光・特産品等を紹介するブース出展、ステージパフォーマンス等を行います。
日程 | 11 月 23 日（土・祝）・24 日（日） 午前 10 時～午後 4 時
場所 | 二之丸広場

オ 名古屋城紅葉コンサート
愛知県出身の実力派クアルテットによるクラシックコンサートを行います。
日程 | 11 月 30 日（土） ①正午開演 ②午後 3 時開演
場所 | 名古屋城茶席庭園
料金 | 1,000 円（名古屋城観覧料含む）※要事前申込
定員 | 各回 30 名

カ その他（期間、日程が各々異なります。詳細はチラシをご参照ください。）
・第 77 回名古屋城「菊花大会」
・西の丸御蔵城宝館企画展「文化財を伝える」・「名古屋城と名古屋まつり」
・重要文化財 西南隅櫓特別公開
・茶席 特別公開
・名古屋まつり「フラワーカー」制作&完成式
・火縄銃実演
・第 68 回全国らんちゅう品評大会
・伝統芸能 猿まわし公演 など

（３）料 金

名古屋城観覧料（大人 500 円、市内在住 65 歳以上 100 円、中学生以下無料）
※10 月 19 日（土）、20 日（日）は名古屋まつりのため無料開放

（４）その他

- ・チラシは区役所情報コーナー、観光案内所等で配布します。
- ・天候の状況等により、催事が中止または変更となる場合があります。最新の情報は名古屋城公式ウェブサイトにてご確認ください。
(<https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/>)
- ・お出かけは公共交通機関をご利用ください。

2 名古屋城公式おみやげ NAGOYA CASTLE シリーズ「殿様のごほうび」の販売について

名古屋城公式土産「NAGOYA CASTLE」シリーズに、やきものの街・瀬戸市の土産店「ヒトツチ」が企画した「殿様のごほうび」の新商品が登場します。「殿様のごほうび」シリーズでは、ろくろを中心とした手しごとで一点ずつ作る湯呑^{ゆのみ}、茶碗、小皿、徳利^{とっくり}、猪口^{ちょこ}、耳飾を販売します。

(1) 販売開始

令和6年10月5日（土）より

(2) 販売場所

名古屋城内 正門横売店

(3) 価 格

- ・御深井釉湯呑^{おふけゆうゆのみ}（2,200 円）
- ・御深井釉珈琲茶碗^{おふけゆう}（3,630 円）
- ・御深井釉小皿^{おふけゆう}（1,760 円）
- ・御深井釉徳利^{おふけゆうとっくり}（3,850 円）
- ・御深井釉猪口^{おふけゆうちょこ}（1,980 円）
- ・御深井釉耳飾^{おふけゆう}（各 4,840 円）

※すべて税込価格

(4) 企画・制作協力

ヒトツチ、喜多窯^{き た が ま} 霞仙^{かせん}



【参考】御深井焼^{おふけやき}

名古屋城初代城主・徳川義直^{とくがわよしなお}は、豊かな国には産業が必要と、やきものに力を入れており、かつての下御深井庭一角^{したおふけにわ}に御用窯^{ごようがま}をもうけ、やきものの産地である瀬戸から陶工を招きました。ここで焼かれたやきものが「御深井焼」^{おふけやき}と名付けられています。

その中でも、真っ白な瀬戸の土に鉾物^{ちようせき}の長石と木の灰を混ぜた釉薬^{ゆうやく}を使った作品は「御深井釉」^{おふけゆう}と呼ばれ、御深井焼^{おふけやき}を代表する作品となっています。